

- 主な内容 ◆地域の減災・防災・・・地域は今、何を考え実施しているか  
◆みんなの食堂プレオープン1/31・・・開催レポート  
◆30年度総会・・・4月21日（土）13:30～、久木会館で開催  
◆聖和学院で、3月20日（火）13:00～、「地域の防災・減災」をテーマに  
プレゼンテーション・コンテスト開催 ビブリオバトル開催

## 第9回住民協役員会

2月4日（日）13:30～15:30、久木

会館で、19名（役員11名）が参加して開催  
されました。主とした審議内容は次の通りです。

### 1. 地域の減災・防災について

平穏なそして多忙な日常生活の中では、突然襲ってくる災害にどのように対するかは、大変大切であるに係わらず忘れがちです。毎年、地域がまとまって行う避難所体験訓練は、住民の関心が高いとは言えず、参加者を増やすことが最大の課題となっています。

住民の中に減災・防災に対する意識が高まって、その結果として普段の訓練や備蓄が、非常時に有効に生かされてくるものと考えています。

地域の防災・減災の実状を話していただき、お互いの糧となる機会として開催しました。

#### (1) 久木連合町内会

16年度、現状に即して実際に役に立つように、自主防災部災害発生時行動実施要項、行動指針を改訂した。

主要点は、◆細かく分かれていた組織を簡素化して情報班と支援班の2班編成とした。◆構成員は役員外に協力者も構成員として登録する。◆本部を久木神社社務所に置く。役員は集合後、班に分かれて行動する。◆遠隔となる4丁目・9丁目はそれぞれの会長宅に集合し状況確認の後本部に集合する。◆防災倉庫機材の町内会

#### (2) 逗子ハイランド自治会

民生委員・役員が中心となって要支援者82名のリサーチが終了した。

ハイランド地域は、特に津波避難者の受入れ場所として対策を進め、西側にあるスポーツ広場

員への災害時貸出規定を明確にした。

17年度、上の改訂を基にして22名が参加して机上訓練を行って、次のことを確認した。

◆安否確認の第1段階は要支援者（138名）、お互い様見守り世帯について行う。◆被災状況把握や安否確認のために詳細な防災地図を作成する。◆可能な範囲で支援活動を準備する。更に、全世帯の安否確認や支援活動を強化するために、班長さんの協力・ご近所の普段からのコミュニケーションが重要であることが再確認され、会員の理解を広めていく

を考えていたが、隣接する山の崩落の危険があることが判明したので、他の適当な立地の再検討をしている。14個の防災倉庫の内部整理、延べ63名の救急救命講習等を行った。

また火災に対しては、訓練を通して消火器の扱

い等で、実際に即して役立つように再評価を行

っている。

### (3) 山の根親交会

防災倉庫点検（毎月）、防災訓練（4月）、救急救命訓練、市防災訓練・避難所訓練、避難路造成等を行っている。参加者が高齢化しており、特定のメンバーしか参加しない傾向にあるのが問題である。お互い様サポーター会議を通して安否確認の体制を作ることを進めている。要

支援者16名の内、5名の方と話し合った結果、支援をしてくれる人を見つけることが難しいという意見があった。地域の人に関心が薄いこと若手の参加が見えてこないことに関連すると思う。こちらからの情報提供を大切にしたいと思っている。

### (4) 山の根自治会

21名からなる防災会議を中心として進めている（メンバーは地域で実際に活動できる人で、自治会が依頼し承諾した人で役員とは特に関係ない）。訓練は隔月の防災倉庫点検と会議、市防災訓練・避難所訓練・普通救急救命講習・避難路整備等で、安否確認・生活支援のために全世帯の事情を資料（減災資料）としてまとめている。近年は安否確認を重要視して、自治会内を3ブロックに分け、更にその中に「互近助」の関係ができる班単位或いはそれよりも小さい、向こう三軒両隣の組織を作り始めている。

班長が小さなコミュニティの核として重要なので、避難所訓練等に極力参加することを求めている。

安否確認の訓練として、避難所訓練と連携して「在宅避難者への物資配給訓練」を行った。事前に2回のワークショップを班長まで参加して行い、在宅避難者を想定し、訓練当日避難所に届けられた救援物資としてのビスケットを、避難所から在宅避難者宅を訪問し届けた。成果として支援する方、される方も相当に減災意識のレベルが向上したことである。

## 2. 会館祭計画の件

龍村リーダーから次の計画の説明があり了承されました。

開催時期は、10月ごろを予定し、全市で開催されるアートフェスティバルの一環として開催することを考えている。同じ時期に久小で行われるワクワクフェスティバルと同時開催す

ることもありうる。

内容は会館を使用しているグループの発表の場を主とし考えているが、会館は将来地域のコミュニティセンターとなることが予定されているので、現在にこだわらない内容にすることも考えたかどうかの意見があり、時間をかけて調整していくことになりました。

## 3. みんなの食堂プレオープンの報告

東リーダーから報告がありました。尚、報告内容は多岐にわたりましたので、ここでは特に浮かび上がった課題と改善策について記載し、開催内容や感想・結果等は後に掲載されている「みんなの食堂プレオープン開催レポート」をご覧ください。

**総評：**百名を超える大勢の来場があり参加された親同士が食事をしながらの交流もあり、理念で掲げた通り「久木と山の根の親子が地域とつながるキッカケの場」となった。

**調理の課題：**調理チームの負担が大きく5時間の立ち作業を強いてしまった。前もってレシピを共有しておらず、量や味付けなど混乱が生じた。

**調理の改善策：**人数の増強やメニューの検討が必要。調理のコアメンバーを固めて事前に情報を共有する。急に抜けた人が出ても問題のない体制とコアメンバーの連絡網を作る。当日のキッチンにもメニューとレシピ・分量を貼り出し、情報共有して進める。シフト制を敷き、2時間おきに休憩をとれるようにする。

フロアの課題：玄関前自転車置き場の整理で人手が必要となった。受付表を持ってこない人が多く、その場で書くのに時間がかかった。開始後の大人の来場者が、お迎えなのか参加なのか、見分けにくかった。

フロアの改善策：屋外の誘導スタッフを一名つ

けるか、案内表示する。当日受付表を改良する。小学生が一人で来ても書きやすいフォーマットに。18時10分受付終了と明記する。18時以降の保育園お迎え後の親子に対応。ごみが出るお菓子は出さない方が良い。食後のお茶も出せたらよかったか。

#### 4. 30年度住民協総会開催の件

次のことが決まりました。

① 開催日時と場所：4月21日（土）、13：30～16：00、久木会館

② 総会形式：通常総会と懇談会の2部構成で

③ 総会までのスケジュール：

3月度総会に総会資料の原案を事務局が提示し、決定する。

### 部会報告

ふれあい部会 報告者 龍村 敦子

ふれあい部会参加メンバー 田倉、勝山、山崎、小田、木村、鈴木為、龍村

次の事項が話し合われました。

1. コミュニティーサービスの先輩、葉山町堀内地区、南林間地区の宣伝チラシを参考に久木地区の宣伝チラシのたたき台を次回までにつくる。

2. 担い手はボランティア活動ではないので、ボランティアという言葉は使わず、サポーターとする。

3. 年間登録料などの話もしたが、よく考えて料金などは設定する。

4. 介護保険外のサービスであるから、担い手も利用者になり得る。柔軟性のある活動が望ましい。一方、できるサービス、できないサービスの線引きもよく検討しなければならない。

5. サービスで使用するようになる草刈り機などの保管場所についても検討を要する。会館敷地内の倉庫が使えることになるとありがたい。各自治会が所有している資機材を柔軟に使うことができるとういが、これは各自治会の意見もあるので、要検討。

6. コーディネーターについては十分な検討が必要。会館にコーディネーターを常設するのか、葉山町堀内地区のように携帯電話を順番に持ち回りにするのか。

以上、検討課題が多すぎて、時間はいくらあっても足りないくらい。しかし先輩地域が動き出していることを考えると、あまり慎重すぎるのもなかなか船は漕ぎ出せない。行きつ戻りつを覚悟して、無からの創造を楽しみながら活動したい。

《逗子市の防災・減災について考えよう》 をテーマに

### 聖和学院で プレゼンテーション コンテスト

日時と場所：3月20日、13：00～16：00、聖和学院 礼拝堂  
どなたでも参加いただけます。

・・・同校の生徒が「当市の防災・減災」についてプレゼンテーションをします。  
終了後ビブリオバトル（注）校内大会を実施。

（注）集まった人の中で5分で本を紹介。読みたくなった本を投票で決める。  
スポーツのような書評会です。同校は全国大会に出場しています。

## 《みんなの食堂プレオープン開催レポート》

久木住民自治協議会 子ども部会

2018年1月31日（水）、久木会館にて「みんなの食堂」をプレオープンしました。百名を超える来場あり、賑やかに、和やかに、みんなと一緒に夕食を頂きました。



「久木と山の根の親子が地域でつながるキッカケの場」と掲げたとおりの場になりました。ご参加いただいたご家族と子ども達、当日運営スタッフ皆さま、ありがとうございます。

食事のメニューは四品です。「豚汁」「おにぎり」「わかめともやしの和え物」「なばなのおひたし」メインデ

ィッシュの豚汁は、有機大豆の手前みそ、とちぎや様から寄付の油あげで絶品美味でした。黒門とびうおクラブの永井コーチが収穫のワカメ、山の根の里で採れた無農薬なばな美味しかったです。人参やじゃがいもなど有機野菜を「もったいない野菜 基金」から格安で入手できました。他、河野新聞店、久木あおぞら学童から飲料の寄付がありました。

10名の調理チームと、サポートで駆けつけてくださったずし子ども0円食堂メンバーで、心を込めて作りました。



参加者数；122名

（内訳）小学三年生以下44名、小学四年生以上18名、  
保護者他 36名  
運営スタッフ24名

○収支：入金 28,900円（参加費24,200円、寄付4,700円）  
支出 22,192円（食材費・消耗品費など）

### 編集後記

最近、健康寿命という考え方が広まってきていますが、この考えは75歳以上を後期高齢者として一つにくくってしまうのとは違い、塊ではなく一人ひとりをみつめていく考え方です。

世代とか、世代間だとか、よく使われる言葉で塊を指しますが、実は属する一人一人のおかれた環境は異なり、塊として片づけてしまうのはいかがなものか。

これから迎える人口減少の世の中では、社会の制度としても年齢や年代でくくった世代的な考えは、薄くしていくのが良いと、事務局の仕事をしながら感じています。

事務局長 鈴木 為 之

## 《みんなの食堂プレオープン開催レポート》

久木住民自治協議会 子ども部会

2018年1月31日（水）、久木会館にて「みんなの食堂」をプレオープンしました。百名を超える来場あり、賑やかに、和やかに、みんなと一緒に夕食を頂きました。



「久木と山の根の親子が地域でつながるキッカケの場」と掲げたとおりの場になりました。ご参加いただいたご家族と子ども達、当日運営スタッフ皆さま、ありがとうございます。

食事のメニューは四品です。「豚汁」「おにぎり」「わかめともやしの和え物」「なばなのおひたし」メインディッシュ

の豚汁は、有機大豆の手前みそ、とちぎや様から寄付の油あげで絶品美味でした。黒門とびうおクラブの永井コーチが収穫のワカメ、山の根の里で採れた無農薬なばな美味しかったです。人参やじゃがいもなど有機野菜を「もったいない野菜 基金」から格安で入手できました。他、河野新聞店、久木あおぞら学童から飲料の寄付がありました。

10名の調理チームと、サポートで駆けつけてくださったずし0円子ども食堂メンバーで、心を込めて作りました。

参加者数：122名

（内訳）小学三年生以下 44名、小学四年生以上 18名、保護者ほか 36名

運営スタッフ 24名

○収支：入金 28,900円（参加費 24,200円、寄付 4,700円）

支出 22,192円（食材費・消耗品費など）

